

現役より

66 期 大倉幸章

みなさん、こんにちは。金沢大学ワンダーフォーゲル部 66 期部長の大倉幸章です。この度、黒崎会長よりやまざとへの寄稿の機会をいただきましたので、今期の活動概要と今後の展望について簡単に紹介したいと思います。拙い文章ではありますが、現役時代に思いを馳せつつ今日の部活動を知っていただければ幸いです。

現在のワンゲルでは 11 月に運営代の引継ぎが行われており、3 年生が中心となって部長・副部長・会計・SNS の固定役職に加え、適宜山行の責任者を定めております。この中で現代ならではの



(白山スキー合宿)

役職として SNS がありますが、これは主として Instagram や LINE や X(Twitter)などのメディアで部の発信を行うものになります。春に新入生を呼び込む際は、従来のビラ配りとポスター掲示に加え、SNS を通じて説明会や各種体験会の広報を行っており、多くの人が SNS の投稿をもとにして各種イベントに参加します。

今期の運営代が初めに行った行事は、2 月の白山スキー合宿です。コロナウイルスの影響で大学側より宿泊を伴う活動が禁止されてしまっていたので、3 年以上の空白を経たのちの合宿となりました。長きにわたる禁止により合宿のノウハウが失われてしまっていたため、必要なものや計画をイチから運営代で話し合い、何とか実現させる

ことができました。1 泊 2 日ながらも昼はスノースポーツを楽しみ、夜は貸し切った山麓のロッジで料理やゲームに勤しみ、温泉に入って帰路に就くという、大変充実した合宿となりました。

雪が融けて浅野川沿いの桜が見ごろを迎える春、新入部員の勧誘が始まります。今年はビラ配布と SNS を通じた広報で部員を募りました。今日、部の SNS では説明会や各種体験会の広報を積極的に行っており、多くの人が SNS の投稿をもとにして各種イベントに参加してきました。

また 66 期からの新たな取り組みとして、留学生の受け入れも開始しました。説明会や資料作成を英語で行うのは少々手間のかかる作業ですが、部が異文化交流の空間となり、留学生が日本の美しい自然を体験できることから意義深いものになったと考えています。案外山登りに興味のある留学生は多いようで、台湾・中国・韓国といった近隣国の学生のみならず、ドイツ・オランダ・ブラジルなど遠方の国からやってきた留学生も入部する結果となりました。

新入生が入った部がまず行うのが新歓 BBQ であり、医王山のバーベキュー場で肉を焼きながら交流を深めます。本格的な登山の前に医王山を散策し、自己紹介を交えて部全体の一体感を醸成するものです。山の軽いイメージを掴みつつ、部会で山に関する知識を学んだところで実施されるのが新歓登山です。例年行き先は医王山であり、毎年何人かが滝に入ります。また、この新歓登山では次の運営代を担う 2 年生が初めて班長となって計画を立てます。バスを逃してしまうなどのトラブルがあったものの、今年も新緑の中を無事故できました。



(医王山新歓山行)



新歓BBQ



新歓登山

医王山を経てある程度山に慣れた7月には、白山に行っていました。今年は「白山に登りたくて金沢大学に来た」という気合の入った部員もあり、全ての班が少なくとも室堂まで登ることができました。室堂や山頂付近は曇ってしまっており景色を楽しむことは叶いませんでしたが、多くの部員が満足気に山を下りてきました。

途中でアニメキャラクターのコスプレをした他の登山者と交流したり、高山植物の写真を撮ったりするなど、各々が思い思いに山を楽しんだようです。そんな素晴らしいものとなった白山登山ですが、多数の部員が車を持っていない現状において、チャーターしたバス以外で白山に行くのは難しく、OBOG会の支援があってこそ行うことができました。この場をお借りしてOBOG会の皆様に、深く感謝申し上げます。



白山バス



白山登山口



白山山頂



(白山山頂)

夏休み中には、富山県は立山連峰への登山も行いました。一人暮らしの部員が多く夏季休暇中は実家に帰省していることもあって参加者は多くありませんでしたが、暑い麓から離れて青い風と雄大な自然を全身に受けることができました。この登山は1泊2日での開催となった為、短期間ながらも登山宿泊が数年ぶりに息を吹き返したこととなり、個人的に嬉しく思っています。

また今期のワンゲルを語る上で外せない活動として、ベルクハイムの整備があります。今期は5月と10月にOBOG会の方と共に小屋を維持する作業を行っていました。私は5月に始めてベルクハイムを訪れましたが、あれほどの山中に水洗トイレを備え、内部で立ち上がることができるほどの建物があることに驚嘆いたしました。小屋作業では周辺の草刈りと部屋内・トイレの清掃を行い、中で食事を摂るなどしました。10月の作業

は高三郎山の登山を含めた2泊3日のものとなり、厳しい道中ではあったものの、またとない経験を積むことができました。



これらの経験を踏まえ、現在現役の間では素晴らしい小屋をどう活用するかといった議論が活発に行われています。私としてはあの場で焚火をしたいと考えていますし、次期運営代からは魚釣りや新歓登山合宿をベルクハイムで行いたいという声が上がっております。また、将来的には発電機構を整備し、内部での照明を確保したいという野心的な意見もありました。

しかしながら、整備に参加した現役の間では「今のままではとても新入生を連れてくることはできない」という共通認識があります。設備的な面では、水洗トイレや手洗い場を機能させるためのパイプに異常があり、水が出ない状態にあります。女子部員も多く在籍し、今後の料理等での活用を踏まえると、導水にかかる再整備は是非行っていきたいところです。

また、より深刻な問題としてベルクハイムまでの道が険しすぎるという問題があります。今期山小屋整備に参加した現役はいずれも山によく慣れたメンバーであり、お互い助け合って何とか通過することができました。しかし人によっては足が竦んで動けなくなってしまうような危険箇所が、吊り橋前後を中心にいくつもあります。

ベルクハイムの未来を考えたとき、「普通の山道」の整備は、絶対必要であると考えています。水道管を運搬し、スコップで道を拓いていくなどの力作業は現役が担うことができますが、導水そのものの設計やダムまでの移動など、どうしても現役だけでは難しい部分があります。

素晴らしい山小屋をゼロから創り上げ、そして発展させてきたOBOG会の皆様のご力添えを、是非お願いしたいと思います。再びベルクハイムをワンゲル団結の象徴と憩いの場にしたいです。どうぞご検討のほどよろしくお願いいたします。



(春の小屋作業)

私事にはなりますが、この文章を書いている私の部長としての任期は残すところあと少しとなり、運営代を降りることに若干の寂寥感を覚えております。日々の登山に加え総会や山小屋整備などを通じて様々な方と交流する機会を頂戴しましたが、60年の歳月を経ようとも、山とこの部の素晴らしさは変わらないことを認識することができました。次の運営代である67期にも、この部を思い、発展させんとする意志を感じます。次の代も、その次の代も、山と金沢大学ワンダーフォーゲル部の魅力と伝統を継いでいってくれると考えています。

最後に、OBOG会の皆様に感謝の意を表明し、私たちの活動に対するサポートをいつも頂いていることに心より感謝申し上げます。今後も山小屋の再整備や登山の補助等を通じ、現役を支援してくだされば光栄です。皆様のご支援と協力に心より感謝いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

金沢大学ワンダーフォーゲル部 66期部長
大倉幸章